

	○校種間連携	学力向上へ向けた、小中連携の一層の改善・推進	小中連携の3部会に分かれて、「活用型授業」の研究実践。小学校授業の協働での指導援助・教材研究・授業実施。	A	「活用型授業」の研究実践2年目として、小学校授業において、各部会ごとに小中TTを組んでの授業づくりに取り組んだ。	・小中連携の校内研修を計画的に、年間12回実施する。 ・小学校高学年を中心に、中学校教員がTT等入り、協働での授業を行う。 ・小6及び中1等での、3部会それぞれの校内研究授業の実施。	3部会に分かれての、小中協働による授業づくり等の校内研修を、計画的に進めることができた。しかし、中学校からの小学校授業への出授業等での協力体制が十分できなかった。来年度は、授業等を通じての一層の校種間連携を図ることが課題である。
	○教育環境	校内緑化 地域環境の美化 清掃整頓の徹底 ノーチャイムの徹底	学級園等の整備。 校内及び地域環境美化。 落ち着いた学習環境整備。 校内掲示物の点検・整備	B	生徒会活動の一環として、朝のゴミ拾い等の地域環境美化や校内清掃活動に、きちんと取り組んだ。月目標の生徒集会での発表や校内掲示も、継続して取り組んだ。ただ、学級の掲示物等やや不十分さも見られた。	校内外の清掃美化・整頓の徹底(下駄箱・スリッパの整頓) 学校緑化、学級園の整備。 生徒会による登校道路・校舎周辺環境美化活動 育友会(おやじの会)との協力・連携。 3分前行動の徹底。	校内トイレ等の清掃もよく出来た。また、トイレのスリッパ並べも、毎日ほとんど整理整頓をできるようになった。育友会おやじの会との連携・協力で、校庭遊具の塗装塗り替えにも取り組んでいた。3分前行動も職員が早く授業に臨むなど、きちんとできている。継続していくことが課題である。
教育活動	●学力向上	基礎基本の確実な定着 表現力の向上 学習指導法の研究 小学校との協働での授業づくり ドリル学習の推進	授業研究、読書指導の推進。 九年間を見通したカリキュラム作成。 研究授業及び指導案作成検討。 ICTを活用した反復学習への取り組み	A	校内研修での、小中学校教師による指導案検討・チームティーチングでの授業研究会を実施した。ICTを活用した反復学習へも、国語・数学を中心に取り組んだ。長期休業中や補充の時間も新たに試行して取り組んだ。	・NRT、県学習状況調査等の活用(県平均を5P上回る)。 ・唐津基礎学力テストで全教科・全員合格を目指す。 ・朝の読書活動の徹底。 ・スピーチ集会、総合的な学習発表会等を活用した表現力の向上。 ・国語、数学での配信システムを利用したドリル学習に取り組む。	スピーチ集会や総合的な学習発表会では、プレゼンテーション等に工夫を凝らし、きちんと発表ができた。また、県学習状況調査では、県平均を十分上回る学年もあったが、目標達成をすることができない学年も見られた。また、唐津基礎学力テストでは補充の時間を設定して取り組み、1回目よりも2回目の方が合格率も向上した。
	●心の教育	全領域における道德教育の充実 差別やいじめのない学校づくり	全領域における道德授業の充実。 全学級において、保護者・地域の方への道德授業公開を充実させる。 SCとの連携・QUテストの活用	A	唐津市教育の日に、全学級で道德授業の保護者公開をした。夏季休業中には、スクールカウンセラーを交えて、児童・生徒への温かい接し方やQUテストの活用研修に取り組んだ。	・各学年における指導計画及び指導案の点検、充実。 ・校内人権・同和教育の推進。 ・人権作文・標語等の適切な指導と活用。 ・QUテストを利用し、支持的風土の学級づくりに取り組む。	道德教育の全体計画や各学年の年間指導計画を作成し、保護者への全学年道德授業公開を実施することができた。人権週間や平和週間にも各学年でテーマを設定して、しっかり取り組むことができた。これからも、いじめのない思いやりのある行動を取れるように、指導を継続していきたい。
	●健康・体づくり	教科保健体育の充実と部活動の奨励 給食指導の徹底 歯と口の健康づくりの推進	適切な選択体育実施と全員部活動の推進。 体力テスト結果の活用と健康安全への意識啓発。 食育教育の推進。 屋の歯磨き実施者80%以上。	A	体育保健部と連携して、歯磨きや給食指導にきちんと取り組むことができた。また、食育に関する講話を栄養教諭や小学校教諭を招き、2回ほど実施した。	・体育保健部生徒の協力による体力の把握と食育教育による健康・体づくりの意欲喚起。 ・手洗い、食後の歯磨き励行。 ・保健だより等の発行と携帯電話掲示板の有効活用。	本校は全員部活動に入っており、昼休みも自主的に練習をしたり、校庭で遊んだりするなど、毎日体力の向上に努めた。毎月の保健だより等を通じて、健康教育の保護者及び生徒の啓発に努めた。新型インフルエンザ等にも十分気をつけ、今年度も学級閉鎖も全くなくて、全員健康に過ごせた。
	○学習環境の改善充実	各種調査結果の分析と対応 国語科・英語科・数学科における指導の充実	学習状況調査で県平均以下であった学年・教科への重点対策。 NRTテストの分析結果の活用。	A	1年生の学力向上へ向けて、12月から6校時後に30分間の補充学習時間を試行し、基礎学力テスト等への取り組みを強めた。NRTや学習状況調査の分析・活用にも努めた。	・生徒の学力実態を踏まえた、個に応じた指導を図る。 ・NRT、学習状況調査結果の分析と対策。 ・家庭の協力を得た、学習習慣を確実に身につけさせる指導の徹底。	夏休みや冬休みの部活動練習前に個別指導を行うなど、個に応じた指導を図り、確実に基礎学力テスト等で学習成果をあげることができた。今後生徒の不得意教科について、学力実態を踏まえて、なお一層個に応じた指導の充実を図ることが課題である。
	○体験活動	各学年の計画に応じた体験学習の実施	社会奉仕に関わる体験活動、自然に関わる体験活動、勤労生産に関わる体験活動、文化や芸術に関わる体験活動、交流に関わる体験活動、その他これらが複合した体験活動。	A	生徒会を中心とした朝のゴミ拾い清掃活動や総合的な学習の時間での自然・勤労・交流等の体験活動を計画的・継続的に実施できた。	教育活動全体を見通した計画の実施。 1年は特老訪問・職場訪問 2年は特老訪問・職場体験 3年は特老訪問・高校説明会等を中心に行う。 その他、生徒会でのゴミ拾い清掃活動やホテルナイトウォークなどを実施。	年度当初の計画に基づいて、各学年職場訪問や職場体験・特老訪問などきちんと実施できた。文化祭や総合的な学習の発表会で、各グループでまとめたことをプレゼンし、地域の方々にも参観していただいた。朝のゴミ拾い美化活動等を、今後も継続していき、更なる地域貢献をすることが課題である。

評価結果を踏まえて、「何ができて、何ができなかったのか」を考える
特に、C、D評価はもとより、A、B評価も、「評価項目として適切だったのか」は吟味の余地がある

6 総合評価	校内研究主題である「表現力を活かした活用型授業の実践」2年目である。今年度は、小中教職員でTTを組み、連携・協力しての小学校授業づくりに取り組んだ。15回の校内研・5回のグループ研を実践することができた。3年生の高校進学希望者は、全員希望する高校へ進学することが出来て、学力保障・進路指導の面でも成果をあげられたと考える。また、心配であった1年生についても、補充の時間等を設定・試行し、唐津市基礎学力テスト等でも一定の成果をあげることができた。ただ、落ち着いた生活を送ることのできない生徒が、ごくわずか見られたりしたことや学級環境整備の面でやや不十分な所があったりしたことは、今後の課題である。来年度は、小中連携による学力向上を、さらに推し進めていくことが課題と考える。
--------	---

「できなかった」点について、次年度以降の具体策を検討する
「できなかった」こと自体よりも、改善策を見出せるかが重要である

7 来年度の改善策	小中連携を通じた学力向上にしっかり取り組んでいく。来年度は、中学校から小学校へ出ていく授業が増えるので、なお一層小中連携しての授業への取り組み・研鑽を積む必要がある。また、いじめのない落ち着いた学校生活を過ごさせるためには、1人ひとりの生徒に寄り添い、良好な生徒との人間関係・支持的風土の学級づくりを図っていくことが肝要である。計画的かつ具体的な生徒の実態把握をし、生徒のより良い学習・生活環境づくりに努めていく。さらに、生徒会を中心とした、継続的な地域美化活動等を通じて、豊かな心のさらなる育成にも努める。学力向上については、試行をしている補充の時間の実施と有効な活用について、しっかり検討をしていく。
-----------	--